

日本最強のやきもの産地
窯業・土石製品
経済産業省
「平成16年工業統計表産業編データ」

陶磁器製タイル製造・
和洋食器製造などの分野では
同細分類別統計調べ



日本最強のやきもの王国を行く

千年の歴史を刻む

朝鮮半島から「須恵器」と呼ばれるやきものが伝わったのは、古墳時代、5世紀のことだ。その後、愛知県瀬戸市、豊田市に連なる猿投山麓で生産が盛んになり、猿投窯は須恵器の一大産地となる。やがてそれは、美濃国（現在の岐阜県東濃地方）に伝わり、知多半島、常

滑の地にも広がっていく。そして瀬戸では瀬戸焼が生まれ、平安から鎌倉時代にかけてやきものの中心地となっていく。

「日本六古窯」に数えられる瀬戸と常滑。桃山時代に茶の湯の文化とともに花開いた「桃山陶」のふるさと、美濃。今も猿投山麓から東濃地域一帯、常滑の丘陵部には、平安から室町時代の古窯跡が数千か所残り、そこから陶片が発掘され、やきもののロマンを呼び覚ます。

陶土が生み出す産地の力

瀬戸、美濃、常滑がやきものの産地として生き続けたのは、ひとえに「土」、良質な陶土があったからだ。白く、耐火度が高い土は、「志野」という日本で初めての白いやきものを、鉄分の多い常滑の土は独特の色彩をもつ朱泥のやきものを生み出した。瀬戸では、陶土の副産物としてガラスの原料である珪砂も大量に生産され、日本のガラス生産を支えている。

明治に入ると、三つのやきものの産地は、「近代化する日本の陶磁器産業を担う」という新しい役割に向けて動き始めた。輸出陶器、工業製品、タイルや衛生陶器……。窯や技術に改良を加え、新しい時代に求められるやきものを大量に生み出していく。その柔軟性とたくましさは今も続く。

それぞれの産地を訪ね、人と出会い、やきものを育んだ風土を感じる、そんな旅に出かけてみよう。





伝統の上に新しいものづくりが息づく

美濃



黒織部茶碗
桃山時代(個人蔵)



青織部向付 桃山時代(個人蔵)



(財)岐阜県陶磁資料館

美濃桃山陶の展示室が陶芸ファンに人気。中庭を囲む形で展示室があり、自然の光が注ぎ込んで心地いい。桃山陶の歴史とロマンに思いをめぐらすなら、まずここへ。

岐阜県多治見市東町1-9-4

☎ 0572-23-1191

営業 9:30~16:30 料 300円

休 月曜日(祝日の場合は翌日)

MAP P110 H-4

伝統の美濃

岐阜県多治見、土岐、瑞浪。東濃と呼ばれる地の緑濃い山並みを眺めれば、無名の陶工たちが窯をつくり、やきものを焼いたはるか昔の姿が偲ばれる。ここは、現代和洋食器からファインセラミックス製品まで、暮らしの中で幅広く使われる陶磁器の生産高日本一を誇る美濃焼の産地。良質な土に恵まれ、千年にわたって多様な美濃焼を生み出してきた。

その中で大きな魅力を放つのは、やはり伝統の美濃焼だ。安土桃山時代に、千利休や古田織部ら茶人の好みを映し出してくれた「桃山陶」。黄瀬戸、瀬戸黒、志野、織部。それまでのやきものになかった日本の美しさとおおらかさを持っていた。鮮やかな色彩、粋にとわれない自由な形、多様な文様。京の茶人の感性がこの地の陶工の技と結びついて、時代を超えて人々を魅了する桃山陶を生み出したのだ。しかし隆盛を誇った桃山陶も最大の庇護者であった古田織部の死によって急激に衰退し、復活までには長い年月を待つこととなる。

昭和5(1930)年、陶芸家荒川豊蔵が岐阜県可児の古窯跡で志野の陶片を発見、それがきっかけとなって、東濃一帯が、再び脚光を浴び始めた。以降桃山陶の伝統の上に、荒川豊蔵、塚本快示、鈴木蔵、加藤卓男の四人の人間国宝を生み出し、ゆるぎないやきものの産地として歩み始めた。

駄知のどんぶり、市之倉の盃

もう一つの美濃焼の顔、それは量産されたやきものの歴史だ。この地方では明治の頃から一つの製品に技術と人を集中させての大量生産が始まった。高田の徳利、市之倉の盃、駄知のどんぶり、滝呂の洋食器。それらが地域の顔として今も残っている。

土岐市の駄知印判館は、明治時代にこのあたりで摺絵や銅版転写によってつくられた印判の器を展示している。摺絵とは文様を切り抜いた型紙を素焼きの上に乗せ、上から顔料を刷り込んで絵付けしたもので、大量に生産するために開発された技術だ。「産地は過去を振り返らずに前に前に進む。ここにどんな歴史があつて今があるのか忘れてしまふんです。今はその技術も消えて再現できません」と話すのは印判館の河合竹彦さん。ここに並ぶのは、河合さんが集めた貴重なコレクションだ。

同じように日本最大の盃の産地、市之倉にあるのが市之倉さかづき美術館。小さな中に、精緻に絵付けされた盃。染付、赤絵、世相を反映した絵柄まで、見ていて飽きることがない。

芸術品ではない、量産されるやきもの。そこにも職人がいて技術を進歩させ、地域の産業を支えた。そんなやきものに出会うのも、ひと味ちがう楽しみだ。



市之倉さかづき美術館

小さな盃にも個性いろいろ。2階の巨匠館では、荒川豊蔵、加藤卓男など美濃が生んだ8人の作家の作品が展示され見ごたえがある。

岐阜県多治見市市之倉町6-30-1

☎ 0572-24-5911

営業 10:00~17:00 料 400円

休 火曜日

MAP P110 G-5



河合竹彦さん



織部の里公園・元屋敷窯

元屋敷窯は、美濃に初めて築かれた連房式登窯。全長24m。その周辺から数多くの陶片が出土している。

岐阜県土岐市泉町久尻1246-1

☎ 0572-54-2710

MAP P110 H-3



駄知印判館

ずらりと並ぶ印判の皿。明治に入ってつくられたものの中には、鉄道や写真を撮る人物など当時の世相を映した絵柄も描かれている。

岐阜県土岐市駄知町2321 ☎ 0572-59-8442

営業 10:00~17:00 料 無料

休 月内最終週の土曜・日曜 年末年始 夏季休業あり

MAP P119 B-4

何度も訪ねたい幸兵衛窯

「現代の美濃は、伝統の上に立って新しいものをつくらう」という意識が強いです。だから、伝統だけにとらわれず新しい気持ちで美濃焼を見ることが大切ですよ」と言うのは、幸兵衛窯七代加藤幸兵衛さん。

静かな山間の窯元のまち、市之倉。坂道を歩くと、凛と建つ古民家が。ここが創業文化元年（1804）年から、200年の歴史を受け継ぐ幸兵衛窯だ。中国陶磁の五代幸兵衛、人間国宝の六代加藤卓男、そして現代作家としても活躍する七代幸兵衛さん。独創性と進取に富んだ気風で新たな美濃焼を生み出してきた。

そんな歴史ある幸兵衛窯には、創作の場、熟練の職人が和食器を制作する工房のほかに、一般公開されている工芸館、古陶磁資料館、幸兵衛窯食器展示室などがあつて、実に見どころが多い。

その中でやはり見ごたえがあるのは、人間国宝加藤卓男、七代幸兵衛の作品の数々だ。英語で輝きという意味を持つ「ラスター」技法が途絶えてしまったベルシャのラスター



ラスター彩大皿 人間国宝加藤卓男作

新しい息吹を感じて

美濃焼の新しいスポットとして訪れたのは、セラミックパークMINO。ここにある岐阜県現代陶芸美術館は、19世紀以降の国内外の作品を収集してやきものの新しい顔をみせている。定期的な企画展も見ごたえ十分。茶室や作陶施設、レストランもあるの、ゆっくりできるのもうれしい。

そして最後は多治見市街地の本町オリベストリートへ。明治時代の蔵や商家が点在する古い町並みには美濃陶芸協会のギャラリーや、若手作家の自由な創作が楽しめるたじみ創造館などがある。お気に入りの美濃焼を探してぜひ歩いてみたい。



セラミックパークMINO



岐阜県現代陶芸美術館
岐阜県多治見市東町4-2-5 セラミックパークMINO内 ☎0572-28-3100
🕒 10:00~18:00 🎫 320円(企画展は別料金)
📅 月曜日(休日の場合は翌日) 12月29日~1月3日 MAP P110 H-4

幸兵衛窯作陶館

手びねり・ろくろ体験コース、下絵付体験コースがあり、当日でも空いていれば体験ができる。自由にいつでも作陶を楽しみたい人には、チケット制の会員コースがおすすめ。

岐阜県多治見市市之倉町4-30-2
市之倉さかづき美術館敷地内
☎0572-22-0509
🕒 10:00~17:00(受付は16時まで)
📅 火曜日 年末年始 前日までに要予約
MAP P110 G-5



桃山様式の半地上式穴窯

幸兵衛窯七代加藤幸兵衛さんと息子の亮太郎さん



彩陶器の技法を再現し、繊細な日本的感性で生み出された加藤卓男のラスター彩大皿、青の世界に引き込まれるような七代幸兵衛の青釉の壺。受け継がれる技法とつくり手の独創が重なった作品、まさに、この窯でしか生み出し得ないものを、その場で観る喜びを味わうことができる。さらにうれしいのは、作陶館があつて、幸兵衛窯の土や調合の絵具・釉薬で作陶体験ができることだ。

伝統の窯元でやきものを満喫する。やきものファンならずとも、わくわくする時間が過ごせそう。



幸兵衛窯

岐阜県多治見市市之倉町4-124 ☎0572-22-3821
🕒 平日、第1・第3土曜日 9:00~17:00
日曜・祝日 第2・第4土曜日 10:00~17:00
🎫 300円(市之倉さかづき美術館との共通券あり)
📅 年末年始 夏季休暇 展示入替日
MAP P110 G-5



青釉壺 七代加藤幸兵衛作

多治見 本町オリベストリート



美濃陶芸協会ギャラリー

岐阜県多治見市本町6-57-1
☎0572-25-5551 🕒 10:00~17:30
📅 水曜日 MAP P110 G-4

たじみ創造館

岐阜県多治見市本町5-9-1 ☎0572-23-5444
🕒 10:00~18:00 📅 水曜日(一部店舗は第2・第4水曜日定休)
MAP P110 G-4



和膳洋菜 花ノ倉

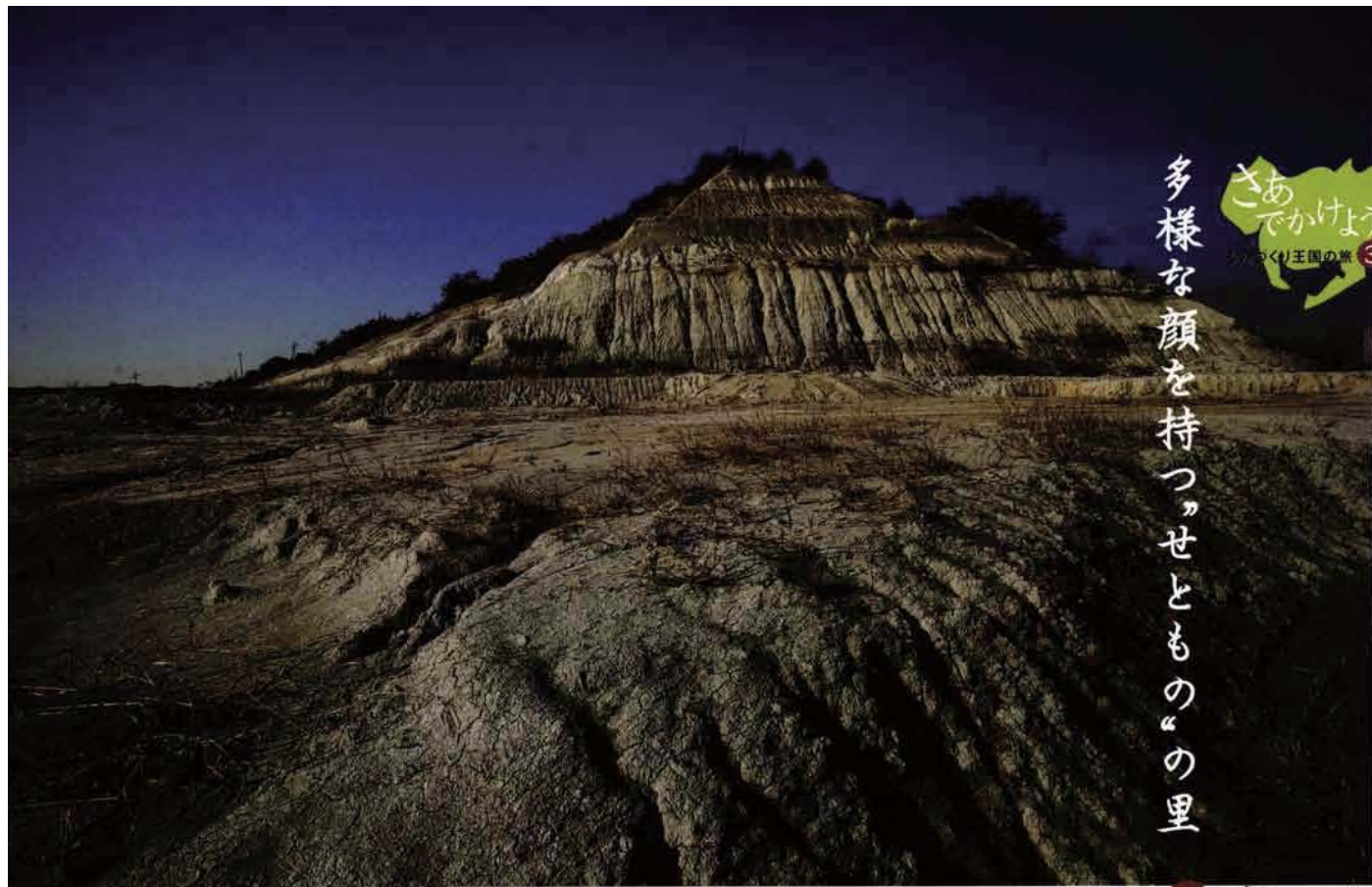
岐阜県多治見市市之倉町6-30-1
☎0572-21-3353
🕒 ランチ 11:00~15:00
ティータイム 15:00~16:30
ディナー 17:30~22:00
📅 火曜日 年末年始 MAP P110 G-5

窯元のまちの和風ビストロ 和膳洋菜 花ノ倉

市之倉さかづき美術館のとなり、蔵をイメージしたレストランが「花ノ倉」。落ち着いた雰囲気の中に、木のぬくもりがあつて心地いい。

ここでお昼にいただくのは、季節の食材を生かした創作料理。食前酒に始まる焼物、煮物、ご飯にデザート、食後茶までのミニ会席だ。ボリュームもあつて見た目も鮮やか。なかでもうれしいのは、市之倉の器が使われ、その取り合わせが楽しめること。最後は幸兵衛窯のティーカップでゆっくりとお茶を。

多様な顔を持つ、せともの「の里」



いつ頃からか、瀬戸のグランドキャニオンと呼ばれている陶土採掘場

瀬戸



瀬戸川沿いに山裾へと広がる、やきものの都・瀬戸の街並み

波乱の千年を歩んだ陶所

「瀬戸」は、「陶所（すえと）」が変じて呼ばれるようになった地名ともいわれる。やきものの里としての歴史は古く、始まりはおおよそ1000年前とされる。優良な原料土の産出に恵まれたこともあり、「六古窯」の一つとしても栄えた瀬戸は、波乱に富んだ歴史をたどった。

まず戦国時代には、陶工たちが美濃に移り住んで一時は衰えてしまうものの、江戸時代に入ると尾張藩の保護を受けて再生。その後、登場した肥前・有田といった九州勢の磁器におされて再び衰えるが、その製法・技術を吸収して江戸時代後半からはまた産地として盛り返す。

さらに、ほかの産地がどちらかといえば陶磁器を希少価値の高い芸術として発展させていったのに比べて、瀬戸は、日常食器やノベルティ（置物）、磁子（磁器製の茶碗）など工業製品といった多彩な分野への進出で、庶民的な産地として成功し、「せともの」は親しみやすいやきものの代名詞にもなった。

ゆつたりと流れる瀬戸川を挟み、山裾へと広がる街並みは、古き陶工の職人文化とやきものをテーマにした新たな観光スポットが同居し、陶都の息吹きを今も漂わせる。

日用品から芸術まで、瀬戸の魅力は奥深い

「瀬戸の魅力とは、とにかく、何でもあ

ること。これだけ深い懐を持つやきもの産地は世界でも瀬戸しかない」。

そう話すのは、瀬戸で生まれ育ち、窯元美山陶房の4代目として国内外で精力的に活動続ける寺田康雄さん。

「だから、特色はこれとわかりやすく説明できない。はつきりいつて情報誌では紹介しにくい土地だね」と笑う。

瀬戸では大窯だけでなく、小さな窯元がたくさん生まれ、それぞれが窯を設けていたのが多彩さの理由だという。

「小回りが効くから皆がいろんな分野に挑戦したんだね。長い歴史の中で、日用品から陶芸作家の作品まで、とにかく瀬戸は何でもつくってきた。ただ施設を回ると面白くも増すはず。この深さはじっくり体験しないと味わえないよ」。

寺田さんは作家活動のかたわら、海外の日本陶芸ファンに瀬戸の魅力をアピールしたり、各地に窯を築いたり、瀬戸のやきもの文化を伝えることに尽力している。そんな寺田さんの思い入れのある地は、瀬戸焼の源流ともいえる小長曾の古窯址（瀬戸市南東部）。国の史跡にも指定された室町末期の窯だ。この場所から生まれた「せともの」の文化を深みまでじっくりと味わってもらいたい。



染付花鳥図獅子紐蓋付大節壺
初代川本樹古作 明治9（1876）年頃
（瀬戸蔵ミュージアム蔵）
明治9（1876）年のフィラデルフィア万国博覧会に出品された。このほかに瀬戸から500点余の作品が出品されている。

小長曾の古窯址を前に瀬戸の魅力語る寺田康雄さん
愛知県瀬戸市白坂町1-1
MAP P112 H-1



織部重箱（寺田康雄作）



窯垣の小径
やきものの中心だった洞町の狭い路地に、窯道具を埋め込んだ独特の塀や壁が続く。

MAP P112 G-1

陶祖・藤四郎を偲ぶ「陶祖まつり」



1200年の歴史を持つ深川神社の境内に陶祖神社がある。

磁祖・加藤民吉とともに親しまれ陶彦神社に祀られている。4月第3土・日曜には、祭礼「陶祖まつり」が催され、総勢100人が鎌倉時代の衣装で練り歩く「御物奉獻行列」や販売市も行われる。

MAP P112 G-1

昔ながらの製法で瀬戸焼に打ち込む水野さん。「瀬戸の土は鉄分が少なく白い。釉薬が映えるから細部も透明感ある仕上がりになります」。



レース人形
瀬戸は世界有数のノベルティ産地。なかでもレース人形は、レースの繊細さをやきもので表し、アメリカで大評判になった。



一里塚本窯
4連房の連居式登窯で市有形文化財指定の一里塚本窯。かつては洞町の洞本窯と一体で13連房もある巨大な窯だった。
MAP | P112 G-1

商店街ギャラリー・かわらばん家
瀬戸下町で活動するギャラリーの草分け的存在。幅50cmずつの展示スペースで28人の陶芸・ガラス作家が、作品を常時展示・販売している。企画展やガラス工芸教室も人気。
愛知県瀬戸市朝日町36番地
☎0561-89-6775
🕒10:00～18:00 🗺水曜日
MAP | P112 G-1



瀬戸蔵ミュージアム
愛知県瀬戸市蔵所町1-1
☎0561-97-1190
🕒9:00～18:00
🗺無休(年末年始を除く 臨時休館日あり)
MAP | P112 G-1



重要美術品・愛知県指定文化財 鉄釉巴文瓶子
鎌倉時代末期
(愛知県陶磁資料館蔵)
平安時代にすでに灰釉の陶器が焼かれ、技術の高さで他の産地を圧倒していた瀬戸。「瓶子」は短い口頸部を持つ液体を入れるための瓶。瀬戸窯の代表的な器種のひとつとして鎌倉時代初期からつくられていた。



黄瀬戸輪花鉢
加藤唐九郎(1898-1985)
(愛知県陶磁資料館蔵)
瀬戸の窯屋に生まれた加藤唐九郎は、1950年代から60年初めにかけて、桃山時代の黄瀬戸製品をかなり意識して黄瀬戸作品をつくりあげた。その典型ともいえるのがこの作品。



瀬戸の味を楽しむ 窯場和食茶房 蔵所
店に入ると巨大な登窯に圧倒される。窯場をイメージした内装や瀬戸焼の器で食事を楽しめる瀬戸蔵内の和食レストラン。モザイク陶壁や陶芸作品なども展示。目も楽しませてくれる。瀬戸蔵内
☎0561-85-4166 🕒8:30～22:00

瀬戸蔵セラミックプラザ
組合直営ショップだけあって瀬戸物の品揃えに目移りする。窯元直売ならではのお得な価格も魅力。
☎0561-89-5758
🕒10:00～19:00



「瀬戸蔵」で出会う、やきもののまちの素顔

瀬戸川を望む市街に建つ「瀬戸蔵」は、やきものをテーマにした大型施設だ。

瀬戸を訪ねるなら、まずはここに立ち寄ってみたい。瀬戸の全体像を理解してから市内の名所や施設を回れば、やきものの巡りがより面白くなるはずだ。

ミュージアムに入ると、まず目に飛びこんでくるのがグリーン色の電車(通称瀬戸電)。百年以上も前、窯元たちが将来の搬送を考え、協力しあって費用を捻出して敷いたという、最盛期の瀬戸を象徴するモニュメントだ。そこを通り過ぎてフロアに足を踏み入れると、気分はすっかりやきもの通。大正、昭和の陶房や窯場を肌で感じながら、歴史を満喫して上の階へ。そこは、千年を超すやきもの史で埋め尽くされた瀬戸の蔵。

日用食器、雑器、工業品から、黄瀬戸、瀬戸黒、志野、織部などの陶芸作品、精細な技術に目を見張るノベルティまで、実に多彩な瀬戸のやきもの文化を堪能することができる。

せとものを買い取ったなら、瀬戸蔵内の組合直営ショップ「瀬戸蔵セラミックプラザ」へ。瀬戸で焼かれる陶磁器はほぼ全種類を揃えているので、短時間でお気に入りを見つけられるのに最適のスポットだ。

年2回開催 窯めぐり



赤津、水野、品野と窯元の多い地域では、春秋の年2回、工房が開放される「窯めぐり」を開催。地域ごとに製品が違うのは多彩な瀬戸ならではの。水野地区では、絵付など作陶体験ができることも多い。
瀬戸市観光協会 ☎0561-85-2730

せともの祭り



毎年9月第2土曜・日曜に開催され、50万人が訪れるという陶都・瀬戸最大のイベント。大規模な販売市が行われるこの日は、周辺の施設や店でもあわせて特別イベントが開かれるので、存分に瀬戸の魅力を味わえる。

地元作家28人の作品が常時展示され、遠方から訪れるファンもいるという。

「一年ごとに反響の低い二人が入れ替わるので、売れるために努力し、活気につながっています」と、発起人であるガラス工芸作家の李末竜さんは話す。

瀬戸蔵やギャラリーが半径300mほどに集まる表通りや路地をゆっくり散策し、陶の都の今昔を再発見してみよう。

新時代が始まった、骨太なやきものの町

常滑



中部国際空港セントレア

2005年2月17日開港。常滑の沖合を埋め立ててつくられた。滑走路3500m1本。国際線340便/週(31都市)、国内線86便/日(22都市)が運航する。空港対岸部も埋立整備が終わり、企業立地が進みつつある。

愛知県常滑市セントレア1-1

☎0569-38-1195

営業 6:40~22:00

休 無休

MAP | P120 G-3

やきもの散歩道

常滑市陶磁器会館を出発点とした散歩道。Aコース(1.5km/60分)、Bコース(4km/2時間30分)がある。江戸時代以来の狭く曲がった道は迷路のよう。ボランティアグループのガイドもあり(要予約/常滑市陶磁器会館)。

☎0569-35-2033

問合せ 常滑市観光プラザ ☎0569-34-8888

MAP | P120 G-3



今も昔も「海」が育む町

愛知県知多半島の中央部、伊勢湾を望む西海岸にある常滑市。今も昔も、常滑を語るのに「海」は欠かせない。千年の歴史を持ち、現在、年間製造品出荷額700億円にのぼる常滑の窯業も、その創成期から海運の力で日本全国に販路を広げてきた。

平成17年2月には、常滑沖に「中部国際空港セントレア」が開港、常滑は新時代を迎えた。観光スポットとしても一躍有名になり、年間約1817万人が訪れる(平成17年、航空旅客は約1235万人)。充実した店舗のほか、さまざまなイベント、見学ツアーの実施など、来訪者を大切にしたい工夫がされているからだろう。

また平成19年1月からは、ボーイング社の次期主力旅客機「787」の主要部品を米シアトルに運ぶ空輸便が就航する。愛知県内に工場をもつ航空機製造会社3社との日米共同プロジェクトの一環だ。中部国際空港に近いという地の利を生かし、海上輸送と空輸を合体させた新たな物流形態が生まれることになる。セントレアのスカイデッキから超巨大な専用輸送機の発着を眺め、ダイナミックな中部の産業の一端を体感したい。

F.L. ライトも仕事をした

中部国際空港1階ロビーの正面の壁に、



ちょうちん横丁

(写真提供: 中部国際空港)

4階は、61店舗が集まるショッピング&グルメゾーン。和の「ちょうちん横丁」と洋の「レンガ通り」が。展望風呂の「宮の湯」では、飛行機の離着陸を眺めながら入浴を。



ロボットコーナー

愛知万博のトヨタグループ館で好評を博したパートナーロボットの演奏会や未来コンセプトビートル「i-unit」の乗車撮影もできる。



(写真提供: 中部国際空港)

見学ツアー

セントレアの見どころを専属ガイドが案内する見学ツアー(有料)と、小学生を対象にした社会見学(無料、学校行事に限る)を行っている。

○見学ツアー(先着予約制)

予約・問合せ ☎0569-38-7575

受付時間 9:30~12:00 13:00~17:00(平日)

○社会見学

予約・問合せ ☎0569-38-7780

受付時間 9:00~18:00(平日)



中部国際空港1階ロビーにあるセラミックアート「The water of life」(吉川正道作)

火で焼かれた土が、まるで水のような清々しさで迫る。



吉川正道さんと吉川千香子さん

「産業とアートの総合性が、今後の常滑のテーマになる」と、正道さん。



吉川千香子さんの作品

名古屋市東山動物園にも「不思議の森」という作品がある。

吉川正道さんは常滑に住んで38年。同じく作家である夫人の千香子さんも学生の頃から常滑に通い始め、当時の常滑の町をよく覚えていて。「黒瓦、黒塀、そして土管の山。不思議な迫力のある町だったわね」。吉川さん夫妻は、常滑のどこに魅かれていたのだろうか。

「何より、仕事をする上で、ほかにはない『磁場』を感じるんだね。フランク・ロイド・ライトも旧帝国ホテルに使うレンガを常滑に発注し、ここで仕事をしていたんですよ」と、正道さん。「そうね。ここは『働く町』だもの」と千香子さん。

長い年月、やきものをつくり続けてきた町の持つ底力、とでも言おうか。それが、今も内外から多くの作家を惹きつけてやまない常滑の魅力だ。

染防止法が施行されると燃料は重油に代わり、ガス窯の使用も始まって、これらの窯も使われなくなった。同時に煙突は減少の一途をたどり、現在は80本ほどに。最近では産業遺産として保存を望む声が上がっている。

常滑の製陶会社INAXの運営する「INAXライブミュージアム」はこうした動きに先立ち、昭和61（1986）年、レンガ造

りの大煙突をもつ倒焰式角窯の建物を産業遺産として保存、展示公開した。翌年には「窯のある広場 資料館」として、明治から昭和の建築装飾材・テラコッタと、明治以降の染付古便器の収集展示も開始。さらに、常滑市がタイル研究家から寄贈された約6000点のタイルの管理・研究と一般公開の委託を受け、平成9年、「世界のタイル博物館」を建設。独自の資料も併せて

展示する日本で初めての研究博物館が実現した。ほかに「陶楽工房」、平成18年10月には、「土・どろんこ館」「ものづくり工房」もオープンした。

「土の多様性を知り、体感・体験できるライブ感あふれる活動拠点です。土と水と火の長い歴史を知り、楽しんでほしい」と、館長の辻孝二郎さん。土にふれに、ぜひ出かけた。

data

INAXライブミュージアム
愛知県常滑市奥栄町1-130
☎0569-34-8282
🕒10:00～18:00
🗓毎月第3水曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始
🎫600円
MAP P120 G-3



光るどろんこ
土の体験教室で、「どろんこの光らせ方」を体験。

土・どろんこ館
外部にも内部にもふんだんに土が使っており、土の肌ざわり、表情、存在感を間近に感じることができる。1階の内装壁「日干しれんが」は、一般参加者とワークショップでつくった。土の魅力や不思議をテーマにした常設展示、ワークショップも。



窯のある広場・資料館
煙突・窯・建物は、大正10(1921)年に築かれ、土管や焼酎瓶、クリンカータイルが製造されていた。煙突と窯は平成9年、国の登録有形文化財に指定。胎色に輝く美しい窯の内部のほかに、華やかな染付の古便器や、建築装飾材「テラコッタ」も展示。



陶楽工房
タイル絵付けやモザイクなど独自のメニューが充実。年間約6千人の利用者がある。
☎0569-34-7519



ピッツェリア ラ・フォルナーチェ
Pizzeria la fornace-fornacelは「窯からできたもの」の意。薪窯での本格的なピッツァのほか、地元産の野菜や海の幸を使った料理が人気。
☎0569-34-8266
🕒10:00～22:00
🗓毎月第3水曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始



世界のタイル博物館
紀元前ピラミッドの地下通路壁面を飾ったタイルから近代まで、約1000枚のタイルを展示。1階のテクニカル・ギャラリーでは、タイルの基礎知識を歴史、製法、技術の面からわかりやすく紹介している。



とことこバス
観光施設をめぐる「とことこバス」(土、日、祝日限定運行)。常滑在住の主婦がデザインしたかわいいうる車が目印。大人500円、小人250円で、何度でも乗り降り自由。券の提示で、プレゼントや割引の特典もある。観光ボランティアが親切に案内してくれる。

やきもの散歩道には、作陶体験ができる窯がたくさんある。その一つ「共栄窯セラミックアートスクール」は昭和46(1971)年まで土管を焼成していた工場を改修したもの。



愛知県常滑市北条2-88
☎0569-34-7721
🕒10:00～17:00 休 水曜日
MAP P120 G-3



「倒焰式角窯」現在はイベントホールとしてコンサートや結婚式、パーティーなどが開催されている。ドーム型の空間の音の響きが演奏家に好評とか。



資料置き場となっていた倉庫は、貸工房に。外国人も含め、13人の作家が創作活動を行っている。陶芸スクールの講師は常滑で活躍する陶芸家。初心者からベテランまで個人のレベルに合わせて指導してくれる。



やきもの散歩道・土管坂

常滑では江戸時代から普及し始めた素焼きの土管を経て、明治以降、高品質が要求された近代型土管に対応して最高級品を生産してきた。土管坂の壁には、明治期の土管と昭和初期の焼酎瓶が使われている。坂道に敷き詰められているのは、ケサワ(土管の焼成時に使用した捨て輪)の廃材。(ふるさと坂道30選)



やきもの散歩道 登窯

常滑では江戸時代末期に登窯が築かれ、20世紀初頭には60基ほどあった。しかし、今はこの「陶楽窯」一基のみ。明治20年頃に築かれ、昭和49年まで使用されていた。重要有形民俗文化財指定



過去と現在に出会う 「やきもの散歩道」

常滑は知多半島の豊富な粘土や燃料を背景に、平安時代末期にはすでにやきものの産地となり、茶碗や皿、壺など後に古常滑と呼ばれるものがつくられていた。江戸後期には中国のやきものを手本に「朱泥焼」が開発され、急須や湯飲みといった茶器を中心とした生産に発展。また土管、焼酎瓶、鉢などの製品を中心に活況を呈した。1900年代になると窯の進歩などで量産体制が整い、常滑は急速に発展していった。

「やきもの散歩道」はこのころ中心地として栄えた場所。現在も稼働している中小のやきもの工場が連なり、かつての常滑の町の姿と、そしてタイル、レンガなど建築陶器から衛生陶器、花器、置物、陶芸家の芸術作品に至るまで、幅広いやきものがつくられている常滑の現在が実感できる。

土と水と火の歴史を知る 「INAXライブミュージアム」

土管や焼酎瓶の生産がピークを迎えた昭和30年代、常滑の中心部には約400本のレンガの煙突が林立していた。大物製品を焼くために明治後期に開発された「倒焰式角窯」の一部である。燃料は石炭で、煙突から吹き上がる黒煙が町の活気を象徴していた。昭和43(1968)年に大気汚



出席者

島田 紀彦
(トヨタテクノミュージアム産業技術記念館館長)

福井 昌平
(元愛知万博チーフプロデューサー)

山本 勝子
(知多ソフィア観光ネットワーク代表)

若山 滋
(名古屋工業大学教授)

赤崎 まき子
(「I TOURS クラブ」サービス機構代表・司会)

地域再生とまちづくり。

産業観光は

『地域革命』だ！

愛知万博で、
中部の観光資源が
明確になった

赤崎(司会) 今日は、中部の産業観光について語ろうとお集まりいただきました。

「産業観光」をジャンル分けすると、伝統工芸、工場見学、産業遺産、各種のミュージアム、そして農業・漁業といった第一次産業もあります。2004年にはITS世界会議が名古屋で開かれ、国内外から多くの方がいらつしました。そんな特化型のテーマ集客事業も含めて、広義のビジター産業ととらえているんです。

でも、その幅の広さをそのままに観光ビジネスとしてやっていけるのか？というところ、

結構難しいところがある。そこで、ターゲットとテーマをきちんと分けて、マーケットを掘り起こしていくことが必要だろうと思っています。

昨年設立した「I TOURS クラブ」サービス機構では、まず最初のターゲットを国内外のビジネスマンと、2007年から退職が本格化する団塊世代のアクティブシニアと設定しました。ビジネスマンなら、例えばアフターコンベンションのツアーをテーマ別にコーディネート……など、試験的に始めています。

山本 その対象を絞って産業観光を進めていくという方法はすごくいいんじゃないでしょうか。

赤崎 ニーズも多様化しているんですね。だから観光として考えると、着地型つまり

歴史、風土、

そして人の精神にふれる

産業観光に

●●●●●●●●

山本 私は、なぜこの地に産業技術が発達したのか、その背景も伝えたいですね。信長・秀吉・家康の三英傑が出たのも、この地域の経済力抜きには考えられない。また日本の真ん中にあつて人や物が集まりやすかったという地理的条件や自然条件に恵まれていたということもあります。ある日ポツと産業技術が生まれたのじゃないということ

を理解していただく。産業観光を切り口に、どうやって日本という国を理解してもらうか。産業観光は日本の文化を説明する最強の手段ですから。たぶん愛知は、その格闘をやっているんだと思うんですよ。「I TOURS クラブ」のプロジェクトも、その実験ですよ。

赤崎 そういう意味では、時代を切り開いてきた先人の人となりなども伝えていきたいですね。豊田佐吉さんとか、盛田昭夫さんとか。

若山 豊田佐吉は、お父さんの伊吉が大工で、非常に腕が良かった。佐吉は尋常小学校を出てすぐ見習いに出て、日本の大工技術を相当身につけていたと思います。

1896年に発明した「木鉄混製動力織機」には、木造技術が生きている。

福井 歯車をつくったりしていますが、見る

受け入れ地の連携ときめ細かい企画や対応が大事だと思います。でも、昨年の調査では、体験型プログラムの中で「陶芸に関心がある」と答えた方が全体の53%もいました。それに、この地域はやはりトヨタ自動車に代表される「ものづくり」で、その背景にはどんなことがあるのか深く知りたい方が多いと思うんですよ。

昨年愛知万博もあり、産業技術記念館にも多くの方がいらしたと思いますが、島田館長、いかがでした？

島田 昨年は入館者数が30万4千人でした。過去最高が15万5千人でしたから、約2倍。海外からのお客様も多かったですよ。万博に向けてコンベンションの代理店対策をやつて、ビジネスマンに多数ご来館いただきました。トヨタのバックボーンは何か？発祥の地は？というのを見に来ていただいたと思います。

若山 今は入館者、減ってきています？

島田 前年比では3割減ですね。しかし、それ以前に比べると6割増です。

福井 昨年は、遊園地などテーマパーク系はドンとお客さんが減ったんですよ。でも、産業技術記念館などの産業観光系の施設は増えた。そういう意味では、この地域の観光資源の存在が明確になった。今までビジネスで来て工場見学だけして帰っていたのが、裾野が広がった。そこをこれからもっと

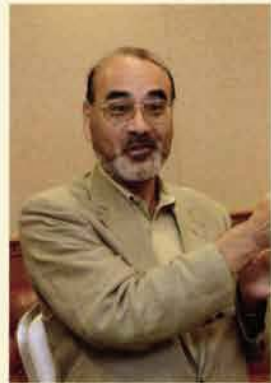
広げていくと、産業観光の厚みが出てくるでしょうね。

産業技術記念館 自動車館





島田 紀彦
1976年トヨタ自動車工業株式会社入社、84年より通算7年半の米国駐在を経て、秘書部(社長専属秘書)、海外営業(アジア部)を経て2004年より産業技術記念館館長。



福井 昌平
㈱コミュニケーション・デザイン研究所代表取締役、CIプランナー。産業技術記念館の設立計画にも携わる。2005年愛知万博では、チーフプロデューサーとして活躍。



山本 勝子
知多半島総合研究所所長代理。1999年「知多ソフィア・ネットワーク」を設立、代表。知多半島が1帯となった観光ネットワークが発足し、産・官・学が連携しながら動いている。

産・官・民で盛り上げる「常滑焼祭り」



工場見学を閉めなければならぬだろうか？
どうしよう？と社内で議論をしています。
でも、社員としてはほとんど見せるべきだと。
だつて面白いでも、現場は。本当に。
山本 私は、産業観光を進めるのに一番大切なのは、企業の皆さんが変わることだと思つています。自分の会社に来るお客さんに、この地域の何を見れば自分たちを理解してもらいステイタスを上げることができるのかを考える。日本の企業は、自分たちが地域を背景に仕事をしていると、あまり思つていらつしやらない。その大転換が必要だと思ふんです。
赤崎 その点、知多半島はずいぶん変わってきましたね。大学が情報発信して、地元の方を巻き込んできた…。
山本 愛知全体もそうですが、知多半島は京都や奈良のように観光で生きる都市ではないんです。自分たちがここで生きるのに、豊かで文化的で、美味しいものが食べられて面白いことが起きて、みんなが力を発揮できるような地域にしたい。そこに人が

人が交流することで、 もう一つの経済が生まれる。

福井 私は昨年、愛知万博の仕事をさせていただいたんですが、博覧会の直接の事業

来てくれたらもっと面白いのではないかと、という発想。着地型観光を追求しています。
自分たちの地域資源は何なのか、というところから始めて、そこに自信を持つたり、対評価をしたりしながら、時間はかかりましたが、今、産官学が何とか連携して、自分たちでできることをやり始めたという感じがします。
もう一つ大切なのは、ものづくりの歴史は深さがあるので、きちんとした研究蓄積がなければならぬということ。愛知県にはまだ歴史博物館がありません。早く基礎をつくつて、人材を養成することが大事だと思ふいます。

費は全部含めて約4千億円です。ところが、2千2百万人の人たちが来てこの地域で消費したのは約5千億円。訪れた人たちの消費経済の方がはるかに大きい。そこをどうするんだ、という議論が必要なんだと思ふてるんですけどね。
山本 私たちも知多半島で、観光に関する事例を取り上げて経済効果の計算をしました。面白かつたんですが、観光事業者だけが儲けているわけではなかつた。かなりの波及効果があるんです。つまり、世の中にお金を回していく産業としては非常にいい。それを証明したら、これから育てる産業として、行政が変わりました。
福井 「もう一つの経済」があるということなんです。今、中部は元気ですが、それがインダストリアル・エコノミーだとすれば、文化や観光によつて人が交流することで新しい経済が生まれるという考え方。そのための投資を、国がリーダーシップを取つて戦略的にやるべきだというのが私の持論です。イギリスは2000年に8千億円を投入



また秀吉・信長・家康たちは、中部とその周辺にいたテクノクラート(技能集団)をそれはうまく使っている。そういうことも関係があるように思ふんですね。
山本 確かに。例えば徳川時代には「黒鉄」という土木技術者集団がいました。三河の「黒鉄」は江戸城の築城に行き、尾張の「黒鉄」は残つて干拓や溜池など日常生活に結びついたところで活躍した。中部には、そういった技術の流れがいくつもあつて、いろいろな形で花を咲かせていったのだと思ふいます。
赤崎 そういふことつて、お話ししているとす

最新のものづくりの現場を見せること。現場は楽しい！
●●●●●
若山 僕は、いわゆる観光資源として、今のものづくりの現場をきちんと見せることが大事だと思います。
最新のノウハウはなかなか見せられないだろうけれど、それでも部分的に見せていく。中部は世界のものづくりのメッカなんだ。このノウハウが世界に広がっていくんだ。そうすると、世界中のビジネスマンや技術者が来ますよ。
赤崎 私たちの調査では、バックヤードを見せてほしいという希望が多かつた。でも、例えば多くのミュージアムはそうは考えていらつしやらない。そこにミスマッチが生じています。この点について、ミュージアムとしてのお立場と、トヨタの社員としてのお立場から、島田館長、いかがですか。
島田 博物館の立場で言うと、自分たちの

持っているものを少し整理するだけでバックヤードツアーはできます。これはやるべきだと思いますし、我々も今考えています。トヨタ博物館は実施しています。普段は展示していない車がいっぱいあつて、好きな人にはたまらない。バックヤードツアーというのは、すごく人を惹きつける手法でもあるんです。
トヨタの社員としては、基本的にトヨタは組織の時代から、自分たちの技術を変に隠そうとするつもりはありません。でも、新車の発表前は別です(笑)。ただ、これだけいろいろな新車が出てくると、どの工場でも新車をつくっている状況にならねなくて、



「I TOURS クラブ」が2006年11月に企画した2泊3日の陶芸体験ツアーでは、元屋敷家周辺から出土した古陶を実際に手にとって鑑賞できる土岐市美濃陶磁歴史館のバックヤードツアーが設定され、参加者に大好評だった。



産業技術記念館 織機機械館

さまざまな実演、実験、イベントが来訪者を魅了する。

学校の総合学習のテーマになってもいい、家族で来てくれるのもいい、団塊の世代でもいい。今回の万博も、今までのエキシビション（展示）から、エクスペリエンス（参加する）、体験するということを大切にしました。

山本 それは、愛知の風土に非常に合って、あれだけボランティアの方も含めて参加があつたんですね。参加して自分たちで盛り上げるといふ感動を味わった。この地域全体にとつて非常に大きい経験だったという気がします。

赤崎 そう。万博を経験して、地域が変わってきましたね。

島田 うちの場合は、若い人に来てほしいという思いがあります。小中高生に来てもらつて、ものづくりの楽しさを知ってもらい、興味を持ってもらう。その人たちが将来どの道に進もうかというときに、「こんなこと

民間と行政が都市の魅力をつくるために、それぞれの役割を果たす

福井 拠点としての各施設は企業が頑張る。そして「I TOURS クラブ」のような組織が、情報ネットワークでそれを結びつける。まさにIT技術やインターネット技術で情報を編集する作業が、非常に重要だと思っています。

そして、そのエリアに対して、歩道を整備するとか、ビギンズセンターをつくるとか、面的なつながりを景観的に創造するとか、それが行政の役割ではないかと思うんですね。「I TOURS クラブ」の問いかけが、その大きなきっかけになってもらいたい。

もう一つは人づくり。価値あるものづくりを実現する人と同じぐらい、その価値をわかりやすく伝導できるインタープリターの役割が大きいのです。博物館にはキュレー

ターが求められていますが、産業観光にはインタープリターがぜひ必要です。

山本 観光という視点でもう一度地域を見直して、地域再生に取りかかる。そうすると、企業は企業の役割、住民は住民、行政は行政、いろいろな力を合わせてやっていくことが出てくる。それをどう整備していくかということでしょうね。

若山 日本は観光が弱いですからね。でも、一時はサッチャーもゴルバチョフもトヨタにきました。東京、京都、トヨタ（笑）。名古屋はないんです。

名古屋の周辺は、とにかく「ものづくり」。重工業、輸送機器、航空宇宙産業も強い。産業地帯の生活都市で、都市としての魅力がない。その地で産業観光を立ち上げるといふのは、たいへんな革命なんです。都市の魅力はどうつくっていくかという視点に立った地域改革なんです。

山本 産業革命に次ぐ観光革命をやるうとしてるんですね。地域再生の切り口として、私はこんないいものはないという気がしています。

赤崎 産業観光をテーマに自分たちの街を見つめ直し、評価して、新しいもの、新しい出会いをつくり上げる。「I TOURS クラブ」も、大変なプロジェクトを始めてしまったなと思いますが、10年20年と腰をすえて取り組んでいきたいと思っています。

今日は、ありがとうございました。

多くの人が参加した
愛知万博（愛・地球博）



して、こういう運動を始めています。中部は同じ条件を持っている。そして、それは地域経済や人材の厚みをつくる。その厚みや多様性が街の魅力になっていくのだと思います。

赤崎 イギリスの国家戦略、具体的にはどんなことですか？

福井 例えば、リ・ゼネレーション運動です。産業革命期を支えた都市施設が今や使い物にならなくなつて、都市の魅力が失われている。それを21世紀、どうリ・ユースすればいいかということで、チームズ河畔の火力発電所を現代美術館に変えるなど、さまざまに取り組んでいます。

赤崎 日本も、ものづくり文化に関わるものをいっぱい捨ててきました。それらを捨てずにどう活用し、新しい街の風景の一部として生かし、人が集まってくるいろいろなことが起こる場所にしていくか。それも「産業観光」だと思っていますね。

福井 アイデアはたくさん出せるんですが、実現するためには変えなければいけない制度が多い。例えば運河だったら、物流システ

ムですから、日本でいうと運輸省や経済産業省の管理。役立たなくなると予算がつかない、放っておかれる、管理者責任が問われるから閉鎖してしまふ。しかし、それを市民の生活文化のために使うということになると、水もきれいにしなければならぬから、浚渫もしよう。それは、生活の基盤である地域、つまり地方自治体が総合的に管理すべき空間になる。そういう切り替えが必要になってくる。

観光も、国土交通省の定義でやっている限り、魅力的なものにはならない。文化、観光、交流を一体的にやるという考え方でなければいけない。それができるのは、本当は地方自治体なんです。そうすると、愛知県ならではの歴史性、現存性といったテイストが出てきますよね。

見ることによる教育、参加体験を大切に

若山 僕はもう一つ、見ることによる教育が重要だと考えます。建築設計を教えますが、「僕の授業を聞くより自分でどこかに行つて建物を見て来い」とよく言います。豊田佐吉も博覧会に行つて、ずっと見ていたんですからね。

福井 そうですね。リ・ゼネレーションと並んだもう一つのキーワードが、ラーニング・エクスペリエンスです。日本語で「参加体験学習」と言っているんです。未来に対して少しポジティブな発想を持つ人をたくさんつくるという考え方。いろいろな世代がいるので、小



内部は大空間を住かした美術館



火力発電所の面影を残す外観

チームズ河畔の火力発電所を再生（リ・ゼネレーション）するプロジェクト。世界を代表する現代美術の殿堂「テート・モダン」に生まれ変わった。



若山 滋

名古屋工業大学教授、工学博士。
『インテンシブ・シティ 都市の集約と民営化』（鹿島出版会）、『大野耐一公人たちの武士道 トヨタ・システムを築いた精神』（日本経済新聞社）など著書多数。



赤崎 まき子

㈱エイ・ワークス代表取締役、中部大学客員教授。幅広く「情報の発信」事業をプロデュースする。産業観光をテーマに調査研究、事業展開をめざす「I TOURS クラブ」サービス機構代表。

山車と からくりに出会う

The world of KARAKURI NINGYO

地域の祭礼で曳き回される山車^{だし}。その宝庫といわれる愛知県(旧尾張藩)には、200台余りの山車と6000体を超えるからくり人形があるとされる。そのほとんどが、江戸時代につくられたものだ。

精緻な彫金・彫刻、絢爛豪華な幕の刺繍など、当時の職人が腕を競い合つてつくった山車は、まさに動く総合芸術作品。「芸どころ」にふさわしい笛や太鼓のお囃子も華をそえる。そして勇壮な曳き回し。狭い辻で方向転換する「車切り」や地域によつて「どんと」などと呼ばれる勇壮な技が見せ場だ。指図する者、梶を切る者、力を合わせて山車を支える者、そして見守る観客も、思わす力が入る。

もう一つの見せ場は「からくり人形」のパフォーマンス。当時最高の技術を駆使してつくられた人形は、逆立ちをしたり、空中にぶら下がった枝から枝へ飛び移ったり、下駄を履いてぐらぐら動く杭の上を歩いていたり、アツと驚く動きをする。さまざまな仕掛けを「ひも」や「差し金」で操っているのだが、まるで人形が一人で演技をしているように見える。

今もこの地域で繰り広げられる山車祭り。ぜひ訪れて、その熱気を肌で感じてほしい。

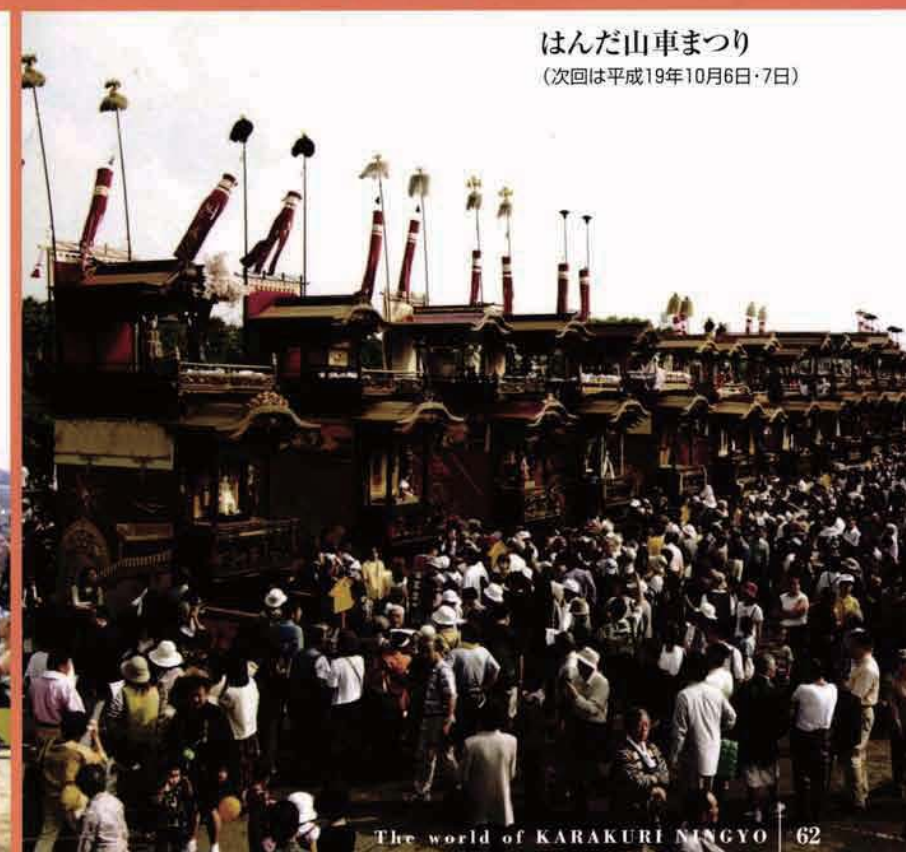
半田の 山車まつり

愛知県半田市には31台の山車があり、毎年3月下旬から5月3日、4日にかけて、10地区で山車祭りが行われる。そのうち19台が28体のからくり人形を持ち、各地区の神社で奉納する。「はんだ山車まつり」は5年に1度、31台の山車が集結する勇壮な祭り。山車の織りなすみごとな絵巻に、町中が熱い興奮に包まれる。問合せ／半田市観光協会 0569-3213264



乙川 浅井山・宮本車の上山人形
唐子遊び(乱杭渡り・変身)

はんだ山車まつり (次回は平成19年10月6日・7日)



潮干祭

(亀崎地区・5月3日、4日)

神武天皇が東征の途中、この地の浜に上陸したとの伝説にちなむ神前神社の祭礼。5台の山車が曳き出され、神社前の浜辺に曳き下ろされる。(山車:愛知県有形文化財 山車行事:国重要無形民俗文化財)



尾張 西枇杷島 まつり

(6月第一土、日)
尾張平野の農産物を集めた名古屋城下に供給する「小田井の市」でにぎわった町、西枇杷島(愛知県清須市)。日本三大青果市場の一つという経済力を背景に、問屋の旦那衆によつてつくられた豪華な山車が5台ある。いずれもからくり人形を持ち、かつての美濃路沿いを曳き廻す。問合せ／清須市役所産業課 052-140012911



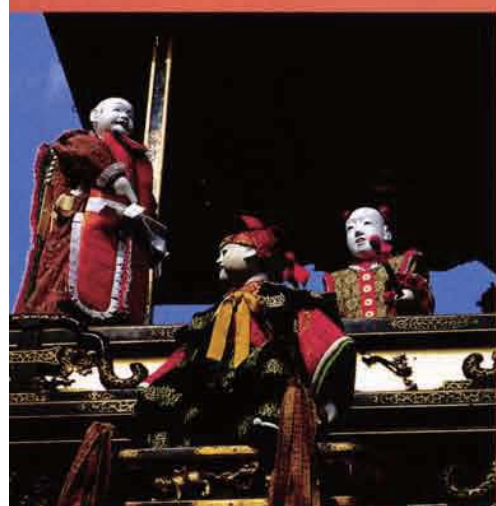
王義之車
山車の向きを変える「曲場(まえば)」



頼光車
坂田金時が岩を山車の外に投げる



泰亨車



紅塵車

参考ホームページ

- 尾張の山車まつり
<http://www.owarino.jp>
- 愛知の山車まつり
<http://www.geocities.jp/sdyys385>

からくり人形からロボットへ

からくり人形の思想を現代に生かそう

からくり人形のファンは実に多く、熱心な研究者も多数いる。

人々を惹きつけるからくり人形の魅力は何か。機械工学が専門、からくり大ファンの末松良一先生にお話を聞いた。

日本人のロボット好きはからくり人形が原点

「からくり人形の優れたところは、まず、200年以上もつようにつくられているということ」と、末松先生。クギやネジを使わず、壊れても分解・修理しやすい仕組みになっているのだ。次に優れているのは、「完全自動をめざさず、人間が操っている点」。観客の反応を見ながら、いかにハラハラドキドキさせて拍手喝采を浴びるかというノウハウも伝えられてきた。「主人は人間」という感覚が当然のように育ち、からくりを親しみのもてる存在にした。「こうして、からくりは日本人独特のロボット観を生み出したのです」。

米国生まれの産業ロボットが、米国やヨーロッパでなかなか導入が進まなかったのに比べ、現在、世界の産業用ロボットの約40%が日本で稼働しているのも、ロボットに対する抵抗感の違いだという。

「実際、日産やトヨタの工場では、ロボットに花子とかツトム、イソギンチャクのお浜なんてニックネームまでつけていました。『自分たちの職場を奪うから失敗したほうがいい』と思うのと、『今日も一日元気に働いてくれた』と思うのでは、違いは大きいですね」。

魅力の二つは「ミニチュエーション」

からくり人形の使用方法は、初期の座敷からくりから日本独特だった。例えば「茶運び人形」。主人が茶碗を人形の持つ茶台に置くと、人形は客人のところまで足を動かし、頭を上下に振りながら運ぶ。客人が茶碗を取ると止まり、Uターンして主人のところに戻る。客人と主人のミニチュエーションの二つとして利用されていたのだ。



茶運び人形
(玉屋庄兵衛作)

動力はゼミのひげでできたゼンマイ。巻かれたゼンマイがほじけて、一番目の歯車を回す。その動きが二番目の歯車に伝わり、これが動輪となって、足は動輪にクランクの原理でついている棒の先に付いていて、畳の上を歩かせるように動いてみせる。

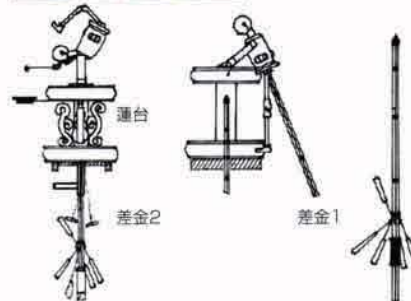
一番目の歯車についた突起が、人形の頭から糸でつながっているレバーを押して、首を振らせる。

茶碗を置くとき、重さで軸木が回ってストッパーを上げるから、茶碗を取るとストッパーがかかると、すべての動きが止まる。

移動する速度を一定に保つために、時計の脱進機構が組み込まれている。また指でカムを初期位置をセットすることで、移動距離が調節できる。

再び茶碗が置かれると、カムが動輪に付けられたハンドルを押して小さな車を傾け、方向転換をさせる。ちょうど三輪車の前輪とハンドルのような感じ。カムがはさると、ばねによってハンドルはもとに戻り、方向転換は終わる。

全部で約40個の部品はすべて木製。



片手倒立唐子
(名古屋宮八幡宮)

2本の差し金で唐子を操る



千年時計

官民協働プロジェクトで製作、2005年の愛知万博で展示した振り子時計。「仕掛けのわかるものが子どもたちの身近にあるように」と、末松先生も参加した。子どもたちが重りを巻き上げると、からくり人形がネジを回す。歯車には、新開発した100%木製の木製プラスチックを使用。からくり人形製作は九代玉屋庄兵衛。

愛知県豊田市
小坂本町1-25
豊田産業文化センター
0565-3311531
MAP P112 H-3



末松良一さん
豊田工業高等専門学校長
名古屋大学名誉教授・工学博士

「山車とからくりに出会う祭り」

夜車山(よやま)。夜になると一年分の提灯を付け、ろうそくを灯す。



370年の歴史を持つ「車山」と書いて「やま」と読む。三層構造で、最上部にからくり人形が設置されている大がかりなもの。13両の車山すべてがからくり人形を持つ。問合せ/犬山観光案内所 0568-616000

13両中、最も豪華といわれる車山。朱漆で彫った文様や、山柿や花梨の材など、高価な材料を使い優れた工芸を施した車山=「すべてに秀でる」として、車山名は「威英(かんえい)」。



子どもたちは、金糸で塗った金襴袴を着る。年齢がいくにつれ、小太鼓→笛→からくりと、担当が代わっていく。

江戸中期になると、見世物や客引きの道具として、庶民にも広く知られるようになる。ヨーロッパのオートマタ(自動人形)が王侯貴族たちの個人的な趣味のためにつくられたのとは大きく違う点だ。

「茶運び人形は、ホームロボットのルーツともいえます。ロボットにただ人間の代わりをさせるという考えでは、今後、どんな使われ方をされるか心配になる。人と関わり、人と人が仲良くなるツール。それが、ホームロボットのありべき姿の大切な部分ではないでしょうか」と、末松先生。

からくりのメカニズムをものつくりを生かす

茶運び人形をヒントに、工場で働く無動力製品運搬車「ドリームキャリー」も開発されている。今までは電気モーターで動かしていたが、これは、製品を置くとその重力で動いて次の工程に運び、そこで製品が取られるとUターンして戻ってくる。まさに、茶運び人形のシステムそのものの製作費用も従来の運搬車の3分の1以下で、ランニングコストもかからない。

末松先生は言う。「重力や人の力を利用する方が、完全無人化するよりずっと確実でいい。持続可能な発展というのを考えていく意味でも、からくりのメカニズムをもっと考慮して、ものづくりに役立てていくべきだと思います」。

からくり人形の世界は奥が深く、現代の私たちが学ぶことはまだまだある。

弓曳き童子

(九代玉屋庄兵衛作)

誰もが認める座敷からくりの最高峰。玉屋庄兵衛さんが、江戸末期に田中久重がつくった人形を借り、修理をしながら図面に残し、半年かけて復元した。4本の矢を一本ずつ取り上げ、弓につかえて離れた的を狙い、弓を絞って矢を放つ。矢に仕掛けがあつて、一本だけの矢をはずすのが楽しい。ゼンマイ駆動で7枚のカム、6個のレバー、日本の糸で操る。座敷前部の真鍮性南車が速度調節をしている。

指南車とは、日本で最初につくられた機械装置で、朝鮮から帰化した僧が9年がかりでつくり、天智天皇に献上した。車をどの方向に向けても、からくり人形はいつも南を指す。愛地球博記念公園の記念館に展示される。



愛知万博に登場した唐子指南車
(九代玉屋庄兵衛作)

からくり人形師 玉屋庄兵衛さんの仕事場を訪ねる。

からくり人形は寛文2(1662)年、大阪・道頓堀で旗揚げした竹田近江のからくり一座で始まった。中部の山車からくりも、興行で来た竹田からくりを見て、その楽しさを祭りに取り入れたのだが、和時計の技術を融合して、独自の発展を遂げた。

それを担ってきたのは、からくり仕掛けはもとより人形の顔から着物、小道具・大道具まで、すべてをつくつてしまう「からくり人形師」といわれる新しいタイプの細工師だった。

一流の人形師は数々いたが、現在も仕事をしているのは全国でも九代玉屋庄兵衛さんただ一人。祭りどころではない戦時下、そして戦後、六代玉屋庄兵衛はさまざまな仕事をして糊口をしのぎ、次代にバトンを引き継いでくれた。そのおかげで、現在、からくりは命を吹き返し、私たちに江戸時代の優れた技術と芸術を見せてくれる。

全国のからくり人形の修復、そしてオリジナル作品づくりに挑む九代玉屋庄兵衛さんは、限定的ではあるが仕事場を公開してくれている。



玉屋庄兵衛さんの工房とギャラリー
要予約 名古屋市北区役所まちづくり推進室
☎ 052-917-6436
📅 毎月第一水曜日10:00~11:00
10人以上20人以下
📄 無料

犬山市文化史料館・からくり展示館
愛知県犬山市大字犬山字北古券8
☎ 0568-62-4802
📅 9:00~17:00
📅 12月29日~12月31日
📄 100円
MAP P110 E-3



感情を表現する動き

からくり人形の顔は能面が基本。微妙な首の動きで感情表現をする。代々の人形師は、能面打ちの修業もしてきた。「修理に来た人形の面を写すのが、一番気を使います」と、玉屋さん。顔は人形の命なのだ。

【山車とからくり】に 名古屋まつり(愛知県名古屋市)

10月10日、20日までの土、日

知立まつり(愛知県知立市)

5月2日、3日に本祭と間祭が1年おきにおこなわれる。

信長・家康・秀吉の郷土英傑行列で有名な名古屋まつりでは、かつての名古屋の三大祭「東照宮祭」「若宮祭」「三の丸天王祭」で曳かれた山車3台が集合する「山車揃」が見られる。それぞれの山車は早朝に町を出発し、街を練り歩きながら市役所に集合。からくりの演技を披露した後、英傑行列の先頭を行く。

問合せ/名古屋まつり協進会
☎ 052-19727611



山車からくり

山車の上で文楽を上演するのは全国でも知立だけ。(国指定重要無形民俗文化財)

5台の山車が練り出し、初夏を飾る一大風物詩。からくり人形は町の人々が自分たちで工夫してつくり、受け継いできたもの。雑木やありあわせの布でつくられている。浄瑠璃に合わせて、からくり(人形の体内にある10数本の糸を数メートル後方から操る物語を上演する。(国指定重要無形民俗文化財) 問合せ/知立神社 ☎ 0566-8110055



梶棒の若衆が山車の後輪を担ぎ上げ、知立神社へ続く坂道を降りていく。

*山車とからくり人形に詳しいHP
<http://www1.cjn-online.com/karakuri/index.html>

からくり人形に会いに行こう！

街の中のエンターテイナー 現代のからくり人形たち

日常の風景のなか、街角に、ビルの壁面に、広場に、時間になると動き始めるからくり人形たちがいる。道行く人は足を止め、その姿にしばし魅入る。コンピュータ制御の大掛かりなエンターテインメント



風神



童子



21 日本の塔「月」
(愛・地球博記念公園 夢童由里子作)
2005年愛知万博に出展、人気を博した。万博記念モニュメントとして、愛・地球博記念公園に永久設置。
月の形を表す10mのタワーは、人類の営みと歴史を象徴する。自然への畏敬を示す風神・雷神、天空に舞う童子たち。
演技時間になると、童子が南車を回したり、「面かぶり」をしたりして、匠の技と中部の産業を表現する。
人形、からくり、コンピュータまで、すべて工房で制作するという、まさに現代のアート作品。音楽は、東儀秀樹氏。

花笠童子



4 宗春爛漫
(大須観音境内 夢童由里子作)
七代尾張藩主徳川宗春と花魁が登場。宗春の問いかけに観客が答えると、それに合わせて「唐子」か「浦島」が登場し、それぞれのシナリオを演じる。



10 橋弁慶



8 白浪五人男



11 シエロ・アルベジオ



1 郷土三英傑
(若宮大通公園100m道路 矢野町西高連道下 人形八代尾張藩主作)
外親は大きな和時計。織田信長が幸若舞を踊り、豊臣秀吉が藤吉郎から秀吉に変身。最後に徳川家康が丁寧なおしきをする。



26 無題
(愛・地球博記念公園 夢童由里子作)
2005年愛知万博に出展、人気を博した。万博記念モニュメントとして、愛・地球博記念公園に永久設置。
月の形を表す10mのタワーは、人類の営みと歴史を象徴する。自然への畏敬を示す風神・雷神、天空に舞う童子たち。
演技時間になると、童子が南車を回したり、「面かぶり」をしたりして、匠の技と中部の産業を表現する。
人形、からくり、コンピュータまで、すべて工房で制作するという、まさに現代のアート作品。音楽は、東儀秀樹氏。

からくり人形に出会えるところ

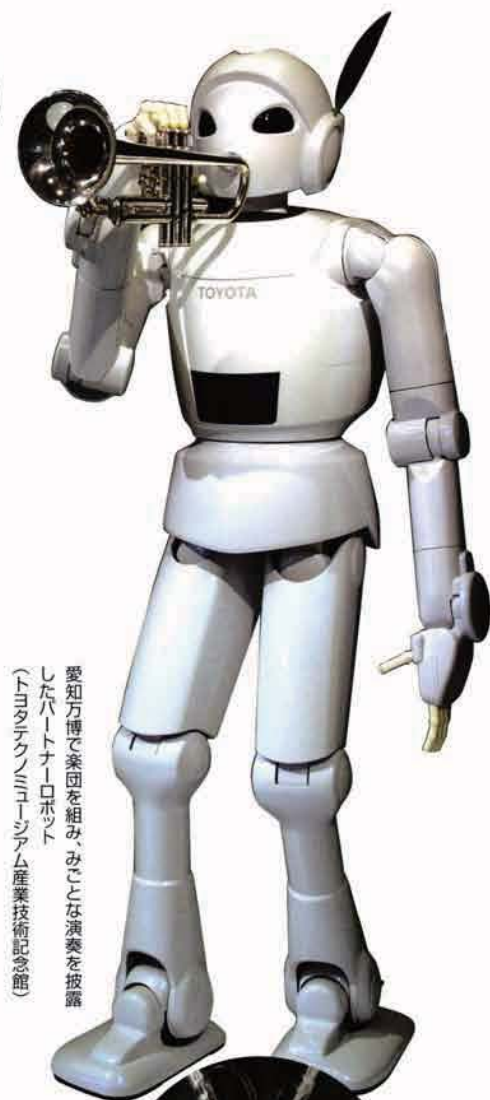
- | | |
|--------------|-----------------------|
| 1 郷土三英傑 | 名古屋市中区 若宮大通矢野町交差点 |
| 2 織田信長 | 名古屋市中区 万松寺本堂 |
| 3 白雪稲荷 | 名古屋市中区 万松寺パーキング2ビル |
| 4 宗春爛漫 | 名古屋市中区 大須観音内 |
| 5 福王丸 | 名古屋市中区 中部日本放送 |
| 6 孫悟空 観音様 | 名古屋市中区 名古屋市科学館 |
| 7 恋は素敵 | 名古屋市中区 テレビ塔東北歩道 |
| 8 白浪五人男 | 名古屋市中区 御園座南西角 |
| 9 からくり口上人形 | 名古屋市中区 地下鉄伏見駅 |
| 10 橋弁慶 | 名古屋市中区 名古屋能楽堂玄関 |
| 11 シエロ・アルベジオ | 名古屋市中村区 ジェイアール名古屋高島屋 |
| 12 テリヨン | 名古屋市中村区 名古屋駅ターミナルビル1階 |
| 13 浦島太郎 | 名古屋港区 名古屋港水族館北側広場内 |
| 14 無題 | 名古屋市名東区 藤が丘駅前メモリアルパーク |
| 15 天空の春 | 愛知県北名古屋市 文化勤労会館 |
| 16 額田姫王 | 愛知県岡崎市 めかた会館 |
| 17 徳川家康 | 愛知県岡崎市 岡崎公園 |
| 18 桃太郎 | 愛知県犬山市 犬山駅東側広場 |
| 19 千年時計 | 愛知県豊田市 豊田産業文化センター |
| 20 天遊舞地 | 愛知県長久手町 梅の花 |
| 21 日本の塔・月 | 愛知県長久手町 愛・地球博記念公園 |
| 22 無題 | 愛知県知多市 佐布里緑と花のふれあい公園内 |
| 23 無題 | 愛知県常滑市 市場町2丁目 |
| 24 無題 | 愛知県東海市 大池公園 |
| 25 無題 | 愛知県東海市 勤労センター |
| 26 無題 | 愛知県豊橋市 愛知県立豊橋工業高校 |
| 27 サーカスピレージ | 岐阜県岐阜市 メモリアルセンター |
| 28 天翔の笛 | 岐阜県高山市 上宝トイカントリークラブ |
| 29 風の童子 | 岐阜県各務原市 東海北陸自動車道 |

[からくり&山車祭りMAP]



17 徳川家康

- A 半田の山車まつり
- B 知立まつり
- C 名古屋まつり
- D 尾張西枇杷島まつり
- E 犬山祭



愛知万博で楽団を組み、みごとな演奏を披露したハートナーロボット
(トヨタテクノミュージアム産業技術記念館)

福田敏男先生に聞く。ロボット工学最前線

世界最先端をいく——

自律型知能ロボットの開発

2005年の愛知万博で人気を博したパートナーロボット、AIBOに代表される家庭用ロボットなど、ロボットが身近な存在になってきた。工場では生産ラインや点検・保守作業で、産業ロボットが大活躍。この地域には小型産業用ロボットで世界トップシェアの(株)デンソーもある。開発する企業や大学の研究室は、まさにロボット工学の最前線。米ロボット学会の会長を務めた経験もある世界的な科学者、福田敏男先生にお話をうかがった。

20年来の研究——自己学習型猿型ロボット

今、どんな研究をされていますか？

福田 僕は20年以上ずっと、自己学習型の猿型ロボットを研究しています。愛知県大山市の日本モンキーセンターの猿をモデルにつくりました。「ロボットはどうやって進化するか」がテーマ。具体的には子どもの頃よくやった「うんてい」の動き、枝渡りをします。最初はきこちなかった動きが、ソフトウェアに適應能力をもたせることで次第にスムーズになった。Ⅲ号には目——

CCDカメラを付けました。それまでは「こういう動きをすればいい」と、枝の場所を教えていたのですが、これはキョロキョロと目を動かして自分で枝を捜します。人間と違って、これが難しい。

カメラの捉えるバックグラウンドの画像の中から自分の行きたい枝を抜き出す。そして立体視してそこまでのだいたい距離を測って、近く

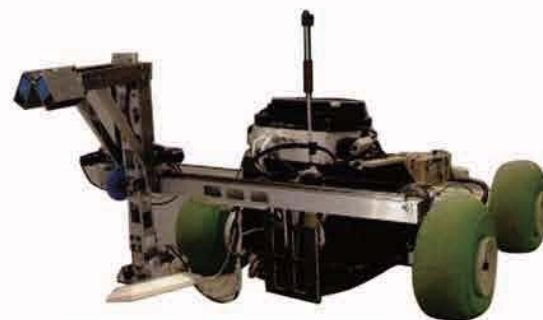
つ足を動かす、急ぐときはギャロップするとかね。どうしてそういう歩容(足の運び)をするのか。実はスピードとエネルギー消費量の関係があるんだね。動物とロボットは違うけれど、それを前提に、アナロジーとして見ると非常に興味深い。

ほかにも知能を持ったロボット同士が集団になった時どうするかという自律分散型ロボットや群知能ロボットの研究、体長10mm以下のマイクロボット、1ミクロン以下のナノロボットの研究など、多岐にわたる研究に取り組んでいます。

「可視化」というキーワードの実用化ロボット

——それらが、例えば昨年開発された地雷探知ロボットなどに応用されていくのですか。

福田 ある目的に対して最適なものに展開していけばいい。地雷探知ロボットは、アフガニスタンの地雷を除去するという目的。今は人間の手作業で、危ないし、金属探知機はすべての金属



地雷探知ロボット 探査効率が大きく向上!



人体の総合シミュレーターロボット「イブ」



福田敏男先生
名古屋大学高等研究院教授、名古屋大学大学院教授、NPO
ヒューマンウェア・ネットワーク推進機構理事長

に反応するからすごく時間がかかる。本物の地雷は千個、二千個の金属のうち一つくらい。でも一つはある。それが怖い。

地中を可視化すれば、地雷の場所がわかります。周波数は少し違うけれど、CTスキャンのように高周波数の電磁波を地中に打ち込んで、その反射をデジタル化して画像にするセンサーシステムをつくったんです。タイヤをつけて、複雑な地形でも安全に動き回れるようにしてね。これは、もつとたくさんの方が使いやすい形にして実用化します。

——愛知万博に出版された「イブ」は？

福田 人間の血管を可視化・立体化した血管手術総合シミュレーターロボットです。

最初ね、血管の中を行く手術ロボットをつくっていたんです。すでに工業界にはボイラーなどの管の詰まりを除去するセンサーロボットがあります。それを生体というので、10年くらいかけてつくったけれど、試験するところがない。そんなボランティアもないしね(笑)。それで、テス

に行ったら補正するわけです。次に枝の距離を変えると失敗する。すると、「評価関数」といいますが、自分で失敗の原因を分析し、成功するようにプログラムを書き換えます。これが自己学習型ロボットの原点です。

猿型を進化させたゴリラロボットは、環境に応じて2足歩行、4足歩行、枝渡りと、いろいろな移動の仕方をするものです。動物の歩き方を見ていると面白い。ゆっくり動くときは一本ず

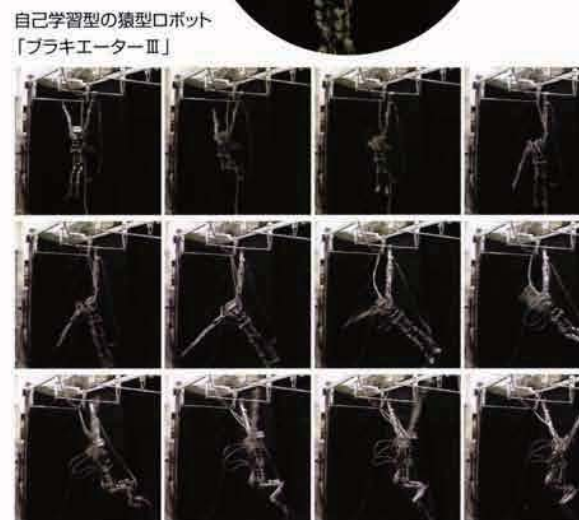
トされるロボットをつくった。そうしたら、手続ロボットより評判が良くて(笑)。

日本ではカテーテルによる手術は意外に行われていなくて、脳の手術なら全体の2割くらい。熟練した技が求められるんです。でも、例えば手術前にその人の脳の血管を立体的につくってシミュレーションすれば、成功率が上がるだろう。あるいは学生の訓練に使う。イブは、血管への力のかかり具合が色が変わって知らせます。また音声で「イタイ」とか言います。面白いでしょ。

いろいろ利用される場面があり、開発にかかわった学生がベンチャー企業を立ち上げて、販売を開始しています。

——ロボット工学の未来は？

福田 日本ほど独創的に自律型知能ロボットの開発をしている国はないんですね。その技術はこれからますます各方面に波及して、日本の独創性を際立たせ、世界の先端に行くことができる。僕は信じています。



自己学習型の猿型ロボット「プラキエーターⅢ」

豊田

トヨタものづくりのDNAをたどる

「障子を開けてみよ。外は広いぞ」と、豊田佐吉は言った。
日本経済を牽引する「世界のトヨタ」になっても、その言葉に代表される創業当初のものづくりの心と情熱を忘れない。
トヨタ自動車の源流、佐吉と喜一郎という親子の物語



「母のため、村人のため」 発明に没頭する

静岡県湖西市にある「豊田佐吉記念館」。
まわりを山と田畑に囲まれ、ゆつたりした時間が流れているようだ。門をくぐると、丁寧に刈り込まれた庭と日本家屋が目に入る。記念館というよりお宅訪問の雰囲気。
裏山に登ると、頂上からは浜名湖を見渡せ、天候に恵まれれば遠く富士山も見えるという。榎林を下り、豊田家先祖の墓にお参りして竹藪をぬけると、茅葺屋根のこぢんまりとした民家が佇む。これが、大正13(1924)年、世界最高性能の無停止杼換式自動織機(G型自動織機)を発明、完成させた豊田佐吉が生まれ育ち、世界に誇るトヨタ自動車を築いた豊田喜一郎も生まれた家である。

慶応3(1867)年2月14日に生まれた佐吉は、小学校を卒業後、父伊吉の仕事を手伝う。仕事先の小学校で聞いた発明家の話に感動し、「自分も人のために役立つ発明をしたい」と思った。

18歳の時、「専売特許条例」が施行されると、ますます研究心が募り、夜遅くまで機を織る母親のために、少しでも楽に織れる機械の発明を決心。失敗を繰り返しながら「母のため、村人のため」と父に隠れて夜ごと研究に没頭した納屋が今も記念館に残されている。土壁の狭くて暗い質素な空間だが、ここからすべてが始まったと思うと感慨深い。

発明に次ぐ発明、 豊田自動織機製作所を建設

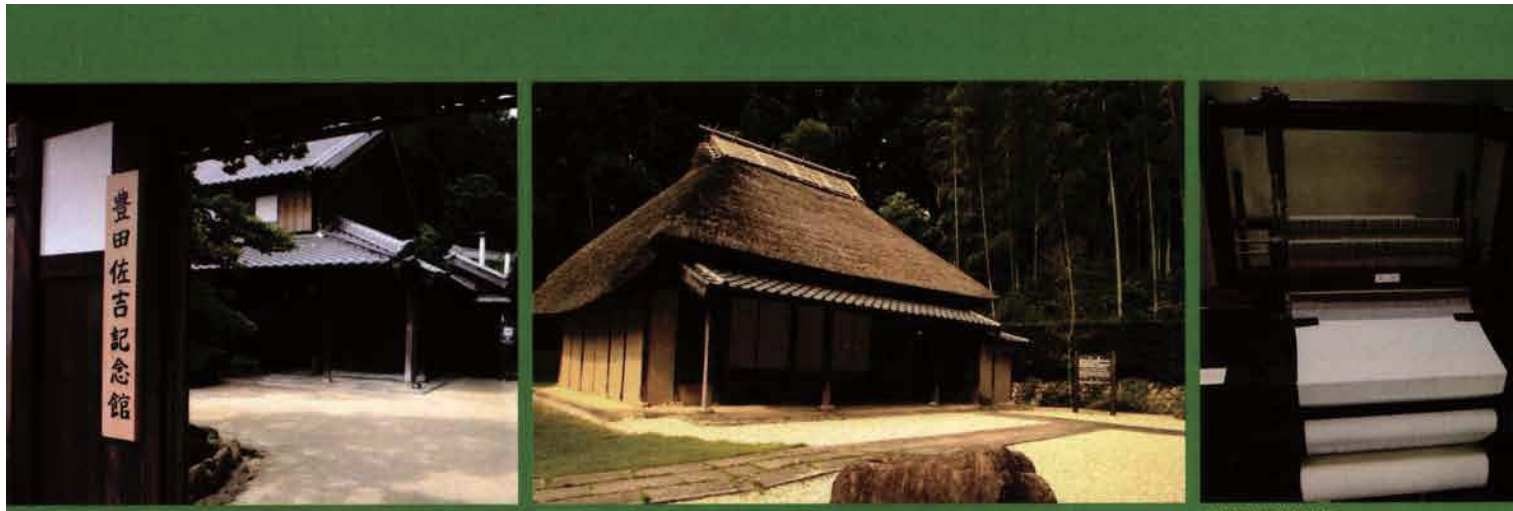
明治23(1890)年春、東京の第3回内国勸業博覧会で西洋の機械に刺激を受けた佐吉は、11月、「豊田式木製人力織機」を発明、初めての特許を得る。同27(1894)年正月、「糸繰返機」を発明、6月には長男喜一郎が誕生している。同29(1896)年、日本初の動力織機「木鉄混製動力織機」を発明。

その後も、次々に織機を発明していった佐吉は、自動織機の基礎研究を進めるため、名古屋市西区に工場を建てて移り住んだ。この工場は豊田紡織(株)に発展。現在は当時の建物を「トヨタテクノミュージアム産業技術記念館」として生かし、紡織機90台の展示や実演運転、自動車技術の変遷などを紹介している。

大正11(1922)年、自動織機を大量に備え付けた営業試験の必要性を感じた佐吉は、交通の利便性を考え、名古屋に近い刈谷に試験工場を建て、研究を重ねた。

大正13(1924)年、ついに念願の「豊田式自動織機(G型)」が完成。佐吉57歳、喜一郎30歳。最初の発明から実に34年の歳月が流れていた。この成功で同15(1926)年、刈谷の工場敷地内に豊田自動織機製作所を建てた。

明治末期まで、動力による織機はすべて海外製品だったが、佐吉の発明と改良で、ほとんどが国産機械に切り替わり、輸出するまでに発展したのである。



木鉄混製動力織機

トヨタグループの始祖豊田佐吉の
原点がここにある

豊田佐吉記念館

佐吉と喜一郎の生家をはじめ、さまざまな織機、初の特許証など、佐吉ゆかりの品々が展示されている。敷地内には、佐吉の父伊吉が植えた榎林や佐吉手づくりのろ過装置を備えた井戸、隠れて研究に没頭した納屋、展望台など、たくさんの遺産がある。佐吉の情熱や志をたっぷり感じられる空間だ。



data 静岡県湖西市山口113-2 ☎053-576-0064
 営業 4月～9月 9:30～17:00
 10月～3月 9:30～16:30
 休 水曜日(祝日の場合は翌日)
 年末 12月26日～12月31日
 年始 1月6日～1月8日
 2月最終水曜日の直前の月・火曜日
 9月第一水曜日の直前の月・火曜日
 料 無料 MAP P123 D-4



豊田式木製人力織機と糸繰返機





旧豊田喜一郎邸
昭和8(1933)年、喜一郎が名古屋市郊外の八事・南山の敷地内に建てた住居を移築修復した。当時としては、洋風のモダンな外観。温かい家庭を感じさせる素敵な家だ。



挙母工場・ジオラマ展示
自動車一貫生産工場だった挙母工場を1/400縮尺模型で再現。工場群の他、研究施設や事務所、病院、寄宿舍、百貨店(トヨタ生協の前身)なども見えて、リアリティがある。

喜一郎とその仲間たち トヨタ自動車創業期のチャレンジ精神にふれる

トヨタ鞍ヶ池記念館

トヨタ車生産累計1000万台達成を記念して、昭和49(1974)年に開館。豊田喜一郎とその仲間らにスポットをあて、彼らの大いなる夢と情熱の足跡を、映像などで紹介している。開館当時話題をよんだ、建築家・槇文彦氏設計の建物にも注目したい。



豊田 喜一郎



data 愛知県豊田市池田町南250番地 ☎0565-88-8811
 営 9:30~17:00
 休 月曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始
 料 無料
<http://www.toyota.co.jp/kuragaike>
 MAP P112 H-3



トヨタものづくりのDNAをたどる 豊田

父から息子へ、
受け継がれる情熱と心意気

この頃、海外のフォードやゼネラルモーターなどの乗用車やトラックが、大阪や横浜で組立てられるようになり、多くの外国車が走っていた。日本市場は欧米メーカーに支配されることが危ぶまれる状況であった。豊田喜一郎は、「いつかは、日本人の頭と腕で日本に自動車工業をつくらねばならない」と決意。「自動車製造なんてやれるわけがない。費用もかかりすぎる」という周囲の反対に言いながら、製作所の片隅で自動車の研究をコツコツと続けた喜一郎。父佐吉は、自分の発明した豊田式自動織機特許権を、「世界一の魔法の織機だ」と絶賛した英国ブラッド社へ譲渡した費用で、息子に援助の手を差し伸べた。

佐吉はさらなる環状織機の研究に励み

初の国産生産型乗用車 「トヨタAA型乗用車」誕生

佐吉の意思を受け継いだ喜一郎は、「国産の小型大衆乗用車をつくりあげるといふ、壮大な夢に向かって走り始める。仲間たちは、喜一郎の雄大な構想と周到な準備力、指導力に絶大な信頼を寄せていた。

創業期のチャレンジ精神とものづくりの心を学べる「トヨタ鞍ヶ池記念館」は、植物園や観光牧場、遊具などのある豊田市鞍ヶ池公園に隣接し、豊田の奥座敷といった格式高い風情を感じさせる。広い展示室は、照明を落とした中に、「トヨタAA型乗用車」と「トヨベトクラウンRS型」が浮かび

上がり、ドラマティック。また、豊田佐吉の発明した木鉄混製動力織機も見ることが出来る。

昭和6(1931)年、国策として自動車製造が正式に認められたのを背景に、同8(1933)年9月1日、豊田自動織機製作所自動車部を設置。10月から1933年型シボレーの分解・調査を始めた。その長所、短所を見きわめ、長所を独自の設計に加えていくとしたのだ。

昭和10(1935)年5月、「A1型乗用車試作第一号」が完成。同年8月には「G1型トラック試作第一号」が完成。さらに同11(1936)年、国産生産型乗用車として初の「トヨタAA型乗用車」が誕生した。これは、現在「トヨタ鞍ヶ池記念館」と「トヨタ博物館」にトヨタのシンボルとして展示されている。

日本人による 自動車工業確立の夢を実現

喜一郎は、自動車工業確立の条件として、大規模工場での大量生産を希望していた。工場用地として選ばれたのは、愛知県西加茂郡挙母町（現豊田市）。荒れた丘陵地帯だったが、輸送手段の確保や貴重な農地をつぶさず工場が建設できるなど、条件が揃っていた。用地買収は難航したが、約58万坪の土地を獲得。

昭和12（1937）年、トヨタ自動車工業設立。翌年11月3日、挙母工場（現本社工場）が操業を開始した。「ジャスト・イン・タイム」必要なものを、必要な時に、必要なだけつくる」という考え方に基づき配置された日本初の自動車一貫生産工場で、その思想は進化しながら、現在のトヨタ生産システムに受け継がれている。

昭和16（1941）年1月、喜一郎は社長に就任。その後、第二次世界大戦が始まり、敗戦、戦後復興と、時代はめまぐるしく変化していく。そんななか、トヨタ自動車工業（株）は同22（1947）年に「SA型小型乗用

車」の生産を開始。一般公募により愛称を「トヨベツト」に決定し、同時に「SB型トラック」も生産。

昭和24（1949）年、ドッジライン[※]が打ち出されると失業者があふれた。喜一郎の下でも労働争議がおき、同25（1950）年、やむなく社長を退任。だが研究心はとどまることなく、大衆乗用車の開発に奔走していた。

その後、喜一郎は懇願されて昭和27（1952）年7月にトヨタ自動車工業（株）社長として復帰することが内定。しかし、その矢先、57歳という若さでこの世を去ってしまった。

日本の自動車工業の基盤確立、そして小型大衆乗用車の実現を夢に見た波瀾多き喜一郎の人生。その意志は脈々と受け継がれ、ついに日本初の国産大衆乗用車「トヨベツトクラウン（RS型）」が誕生した。

昭和30（1955）年正月のことである。

※第二次世界大戦後の日本経済の安定と自立を目標とした財政金融引締め政策。インフレの収束と企業経営の合理化、資本の蓄積を促した。



トヨタ博物館開館10周年を記念にオープンした新館。人々の暮らしとモータリゼーションの変遷をあわせて展示。「なつかしい風景」に出会える。

さまざまなイベント

◎バックヤードツアー



毎回、大好評！常設展示以外の車が収蔵されている「車両収蔵庫」が見学できる。

◎T型フォード運転講習会



講習を受けたあと、T型フォードを走らせる！写真付きの運転講習修了書ももらえる。

◎試乗会



◎撮影会



◎工作教室



車のロマンを堪能する。
世界レベルの自動車博物館

トヨタ博物館

data

愛知県愛知郡長久手町大字長湫字横道41-100
☎ 0561-63-5151
🕒 9:30～17:00
📅 月曜日（祝日の場合は翌日） 年末年始
🎫 1000円
🌐 <http://www.toyota.co.jp/Museum/index-j.html>
MAP | P108 H-3

トヨタ自動車（株）創立50周年記念事業の一環として、平成元年4月開館。トヨタ車に限らず、ガソリン自動車が生じた19世紀末から約100年間の各国、各メーカーの自動車約160台が体系的に展示されている。クルマ好きにとってはたまらない贅沢さだ。

常設展示を補完する企画展に加え、年4回の撮影会、バックヤードツアー、工作教室などさまざまなイベントも充実している。



トヨベツトクラウンRS型



トヨタAXV-IV



トヨベツトSA型乗用車（1951年）



トヨタ初の生産型乗用車
トヨタAA型乗用車（1936年）



和紙工芸館
☎ 0565-65-2953
営業 9:00~16:00 (10名以上は要予約)
料 葉すき...1050円
字すき...1260円
絵すき...2300円
うちわ...1260円
*それぞれに制作時間と乾燥時間が必要



小原

「和紙のふるさと」で
紙すき体験!

小原は和紙の原料・楮こうの生育に適し、昭和初期までは番傘や障子の紙として重宝された「三河森下紙」を中心に「紙の村」として有名だった。しかし時代とともに生活様式が変わり、需要は減少。そこで昭和7(1932)年、工芸家藤井達吉から「三河森下紙厚物」の注文が入り、紙すき職人たちの交流が始まる。以後、達吉の指導のもと、小原の和紙は「美術工芸紙」として発展していく。

和紙展示館は、藤井達吉の作品や全国の和紙、小原和紙工芸会の作家作品などを紹介している。和紙工芸館では、誰でも気軽にオリジナルの和紙作品をつくることができる。

スクロマの街のリズム

愛知県豊田市は平成17年、周辺の6市町村と合併して愛知県の6分の1を占める最大の自治体になった。面積の7割が山間部、農地5千haという豊かな自然を併わせもつ。足をのぼしてゆったりとした時間を過ごしたい。



和紙展示館(和紙のふるさと事務局)
愛知県豊田市永太郎町洞216-1
☎ 0565-65-2151
営業 9:00~16:30
休 月曜日(休日の場合はその翌日)
年末年始(12月28日~1月3日)
料 350円
MAP P119 C-5



手づくり工房山遊里
愛知県豊田市羽布町柿田15-1
☎ 0564-87-1186 営業 10:00~17:00
休 水曜日(祝祭日の場合は翌日) 年末年始
料 体験コース(ボイル仕上げ)
1kgコース(2,3人程度)2500円
2kgコース(5,6人程度)5000円
*スモーク仕上げは500円増し(約1時間)
*開始時間...10時、12時、14時(1日3回)
*所要時間...1.5~2時間 *10名以上は要予約
MAP P123 C-1

下山

おいしく遊ぼう!
本格的ウインナーづくり体験!

できたてアツアツのウインナー、自分でつくれば、また格別の味。「手づくり工房山遊里」では、本格的なウインナーを自分でつくることができる。

材料にこだわり、三河産の豚肉、モンゴルの岩塩、手づくりの黒砂糖マスコバド糖を使用。香辛料のブラックペッパー、唐辛子、バジル、セージの中から一つ選んで、好みの味つけもできる。スタッフが丁寧に指導してくれるので安心。あつという間に完成する。

店内には、オリジナルのハムやソーセージ、ジエラートのほか、地元産の野菜や漬物、調味料が並び、アレコレお土産を選ぶのも楽しい。



モータースポーツ クルマの「楽しさと夢」を追求する

トヨタは、1957年のオーストラリアラリーに初参戦以来40年以上、モータースポーツ活動を通して、クルマの「楽しさと夢」を追求している。2002年からはF1(フォーミュラ・ワン世界選手権)に参戦。活動の拠点は、ドイツ・ケルンにある「トヨタ・モータースポーツGmbH」だ。カーボンファイバー製の軽量F1シャシーと強力かつ信頼性の高いエンジンの開発・製造を行い、シーズン中も絶え間なく改良を続ける。F1で得られた情報と技術は、市販車に生かされていくのだ。

モータースポーツ展示
F1をはじめとする数々のモータースポーツ活動に参戦

最新のクルマづくりを紹介 子どもも大人も楽しめる!

トヨタ会館

トヨタ自動車の工場が見学できる!

トヨタ自動車の組立工場、溶接工場などの見学コース。ダイナミックなもののづくりの現場をのぞいてみよう!
【見学申込方法】見学希望日の2週間前までに予約
●電話予約:月~金曜日 9:00~17:00受付
☎ 0565-29-3355
●インターネット予約:24時間受付
<http://www.toyota.co.jp/toyotakalkan/>



愛知県豊田市トヨタ町1番地
☎ 0565-29-3355
営業 9:30~17:00
休 日曜日 年末年始 ゴールデンウィーク 夏季連休
料 無料 MAP P112 H-4



「未来のパーソナルモビリティ〜i unit(アイユニット)〜」木の葉をイメージしてデザイン。手元の操作で簡単に運転できる。



バーチャルファクトリー
多様な高品質なクルマをつくる生産システムを紹介。

Topics ● ITSの未来をのぞく

カーナビ、有料道路のETC(自動料金収受システム)専用出入り口など、すっかり身近になったITS技術。情報技術(IT)を活用して自動車の安全で快適な移動と、環境への配慮をめざすが、その可能性はとてつもなく大きい。センサーや光学の先端技術を利用し、危険を察知して自動でブレーキをかけたたり、車庫入れをしったり、渋滞情報や地域情報を提供したり…。そんなITSの未来をのぞいてみよう。



IMTS 2005年愛知万博で走った、最先端のITS技術を導入した大型低公害バス(トヨタ博物館に展示)

あすの
スポット

豊田に来たら 立ち寄って!

豊田市美術館

建築家・谷口吉生氏設計のおおらかな空間も魅力の1つ。国内外の近代、現代の美術作品を収集展示。年3〜4回の企画展も定評がある。レストランや茶室もあり、1日かけてゆっくりした時間を過ごしたい。



愛知県豊田市小坂本町8丁目5番地1
☎ 0565-34-6610
🕒 10:00〜17:30
📅 月曜日(祝日は除く) 年末年始 展示入替のため臨時休館あり **MAP** P112 H-3

豊田市近代の産業と くらし発見館

明治から昭和初期を中心とした近代の「産業」と「くらし」を紹介。建物は、大正10年に建設された「旧愛知県蚕業取締所第九支所」。国の登録文化財に登録。なつかしいものとの出会いが魅力。



愛知県豊田市喜多町4丁目45番地
☎ 0565-33-0301 🕒 9:00〜17:00
📅 月曜日(祝日は開館) 年末年始
📄 無料 **MAP** P112 H-3

とよた科学体験館

プラネタリウムとサイエンスホールがある。毎月第4土曜日19時からの特別放映「夜の星空散歩」はロマンチックな雰囲気でおススメ。遊び体験を通じて科学とものづくりにふれるコーナーも楽しい。



愛知県豊田市小坂本町1-25豊田産業文化センター内
☎ 0565-33-1531 🕒 9:00〜17:00
📅 月曜日(祝日・振替休日の場合は開館) 年末年始
📄 プラネタリウム……100円
サイエンスホール……無料(ワークショップ、ミニワークショップは別途料金)
※投影日時など要確認 **MAP** P112 H-3

ホテル百年草

足助屋敷から東へ車で5分ほどのところにある「ホテル百年草」は、福祉センターでありながら、ホテル、レストラン、デイサービスセンター、ハム工房、パン工房を備えた複合機能施設。「生涯現役」を合言葉に、地元の高齢者がいきいきと働き、集う。新鮮な地元食材を使った本格的フランス料理は好評で、宿泊者のリピーターも多い。川のせせらぎを枕にのんびり過ごすには最適な場所だ。

ホテル百年草
愛知県豊田市足助町
東戸10
☎ 0565-62-0100
休 水曜日
(8月、11月は無休)
MAP P123 C-1



レストラン 楓
🕒 ランチタイム11:00〜14:00
ディナータイム17:30〜19:30



足助ハム・Zizi工房
🕒 9:00〜16:00



ベーカリー・バーバラはうす
🕒 8:30〜16:00

地元のお年寄りの生きざまを訪れる人に知ってもらおう。その経験と知恵と技を伝え、「本物の豊かさ」とは何かを改めて感じてもらおう。そんな心意気が伝わってくる「温故知新」の宝庫である。

さまざまな体験実習もある。コースターやテーブルセンターを織る機織り、ハンカチやシヨールを染める藍染、はがきや便箋をつくる紙すき、竹細工、五平餅、わら草履、竹編みがあり、予約すれば気軽に参加できる。



香嵐溪



塩の道

data 三州足助屋敷
豊田市足助町飯盛36
☎ 0565-62-1188
🕒 9:00〜17:00
📅 木曜日(祝日の場合は翌日) 6月第3水曜日
年末年始(12月25日〜1月2日)
*4月29日〜5月5日と11月中は無休
📄 500円
★体験実習予約申し込み ☎ 0565-62-1188
MAP P123 C-1

足助

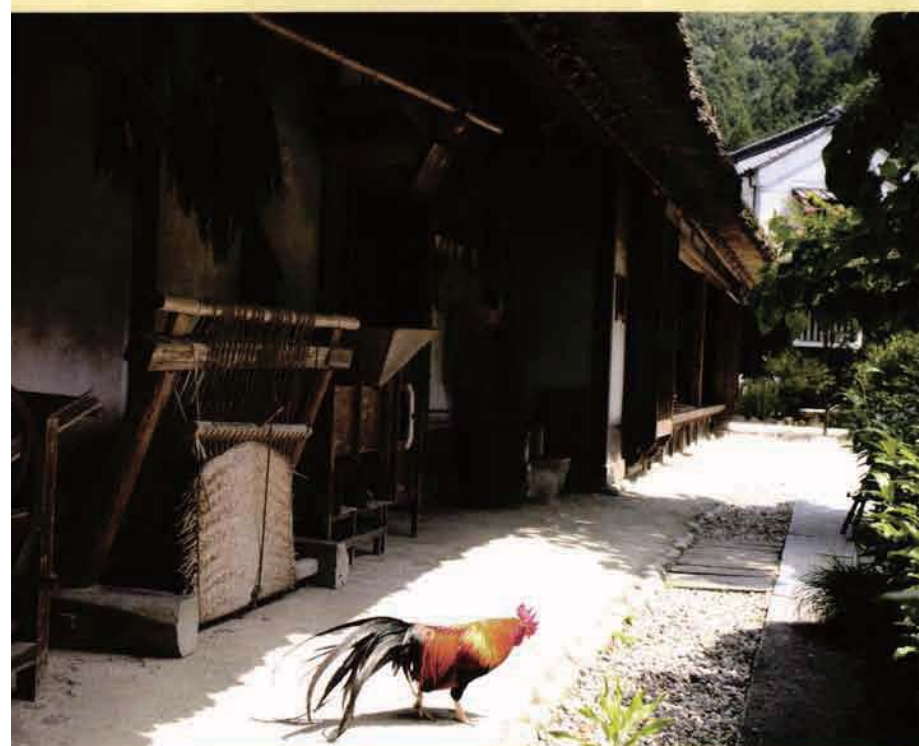
豊かな自然に抱かれた
かつての山里の暮らしがある。
三州足助屋敷

「ただいま」。自然にそんな言葉が口をつく。いつも変わらない温もりで、訪れる人を待っていてくれる、心のふるさと「足助」。豊田市街から北東へ約15km。緑豊かな山々に囲まれ、四季折々の自然美と山里の暮らしが溶け込んでいる。

足助は江戸時代、商人たちで賑わう伊奈街道(明治以降飯田街道)の宿場町として栄えた。三河湾でとれた塩が矢作川を川舟で上った後、足助で荷直しされ、中馬で信州まで運ばれたことから、この道は「塩の道」「中馬街道」とも呼ばれた。

その街道沿いにあるのが、秋の紅葉の季節になると一日に数万人もの観光客が訪れる「香嵐溪」。寛永年間、飯盛山・香積寺の十一世住職参栄本秀和尚が楓や杉を参道に植えた。その後、地元住民が楓や桜を植栽して、現在の景色をつくりあげたのだ。

昭和55(1980)年、飯盛山のふもとに「三州足助屋敷」が開館。ここでは機織りや炭焼き、竹細工、わら細工、鍛冶屋、木地屋、桶屋、傘張り、紙すきなどの「山の暮らし」が営まれている。「必要なものは自分でつくる」という足助の生活を見せる「生きた」民俗資料館だ。



物質にひたりきった生活を見直すために、足助屋敷をつくった



株式会社三州足助公社社長
(初代三州足助屋敷館長)
小澤 庄一さん

高度経済成長期、人々は便利で機能的な生活を求めた。足助も時代の波にのまれ、先人たちの遺産は壊され、人口が都市へと流出した。そんな状態に危機感を感じ、地域文化や生活を見直すために、足助屋敷を発案したのが初代館長であり、国の観光カリスマ第1弾に選ばれた小澤庄一さんである。

「92歳のおばあちゃんが、畑を耕して子や孫のために野菜をつくり、着るものをつくるために機を織る。そこには愛情があって、思いやりの心があるよね。ものをつくるっていうのは、ものを大切に作る原点だと思う。人間の五感を、暮らしの中に取り入れて生活することが必要だよ」。



さあてかけよう「ものづくり王国」の旅 4 80